

受け入れ体制すすめる

市制施行から二・五倍

速度をました人口増加

(進む住宅建設)



ますと別表のとおりになっていますが、その時その時の社会情勢の影響を受けながらも次第に中堅都市の地位を固めようとしています。

自然増加

別表の自然増加というのは、その年の出生人口から死亡人口を差し引いたものです。

昭和二十七年までは一千人台であります。しかし、昭和二十八年から昭和三十七年までは一千人台を割り、昭和三十九年には八万人台といふようになっていました。そして、総人口は昭和三十九年では昭和二十三年の二・五三倍に膨張しています。

自然増加率は全国的な傾向とも歩調を合わせて次第に低下しており、昭和三十九年は、昭和二十三年の二分の一以下の、総人口一千人につき一三・四にとどまっています。

社会増加

社会増加というのは、その年に他の市町村などから当市に転入してきた人口から、当市から他の市町村などに転出した人口を差し引き、さらに職権により登録したものを加え消除したものを差し引いたものです。

この十六年の間に、都市の形体も大きく変わって、当時はぼうぼうたる草原や湿地帯であった旧旭町地区や旧緑町地区、さらに西町や中野地区もすっかり昔のおもかげはなくなり市街地と変わりました。その間の人口の動きをまとめみ

市制施行以来の人口推移

年次別	A 自然増加		B 社会増加		A + B		総人口指標
	実数	増加率	実数	増加率	実数	増加率	
昭和23年	996	30.0	1,375	41.5	2,371	71.5	33,131
24	1,145	31.4	2,275	61.6	3,398	93.0	36,529
25	1,111	28.4	1,586	40.4	2,697	68.8	39,226
26	1,089	26.3	979	23.8	2,068	50.1	41,294
27	1,081	24.6	1,469	33.6	2,550	58.2	43,844
28	926	20.3	972	21.2	1,898	41.5	45,742
29	949	19.8	1,415	29.3	2,364	49.1	48,106
30	841	16.7	2,150	41.8	2,991	58.5	51,097
31	782	14.4	2,600	47.7	3,382	62.1	54,479
32	778	13.5	2,428	40.2	3,206	53.7	57,685
33	868	14.8	2,011	34.2	2,879	49.0	58,833
34	840	13.7	1,558	25.4	2,398	39.2	61,231
35	878	13.6	2,551	39.5	3,129	53.0	64,660
36	895	13.2	2,364	34.8	3,259	48.0	67,919
37	897	12.5	2,951	41.1	3,848	53.6	67,176
38	1,103	14.0	5,662	72.1	6,765	86.1	78,532
39	1,127	13.0	4,055	48.4	5,182	61.9	83,714

注 (1) 昭和26年以前は各種人口調査

(2) 昭和27年以降は住民登録各年末月現在

(3) 増加率は総人口千人あたり

(4) 昭和33年3月職権消除1,731人あるが、この表の

社会増加から減じている。

にあるものとみられます。

総人口

総人口は、比較的早い速度で伸びており、昭和二十六年に四万人台に達し、昭和三十年で五万人台に、昭和三十四年で六万人台と、四年ごとに一万人台の更新を見せる速度でしたが、その後は次第に早くなり、昭和三十七年(三年目)七万人台、昭和三十九年(二年目)八万人台といふようになっていました。

人口は、昭和三十九年では昭和二十三年の二・五三倍に膨張しています。昭和三十九年度のおもな事業費を

受け入れ体制

市では、このような人口増加の受け入れと、将来の発展に備えて、学校・住宅・上下水道など着々と整備につとめています。

昭和三十九年度の苦小牧尋常高等小学校訓導と田中前市長は新冠町の生まれ、明治四十一年北海道師範学校を卒業し同時に苦小牧尋常高等小学校訓導となりました。

田中前市長は、十七日前十時なくなり市葬の礼をもつて十八日通夜、九日告別式がしめやかに行なわれました。

田中正太郎前市長



見ますと、上水道建設約三億五千万円、教育施設建設約三億円、土地造成約二億六千万円、住宅建設約一億五千万円、下水道建設約六千七百万円などとなつておらず、さらに港湾建設には約二億七千万円が投入され、その他の各事業費なども加えて総予算は約四十二億円となつています。

社会増加は、社会、経済の影響を受けることが多く、昭和二十三年、昭和二十四年は海外からの引き揚げなども影響しているものとみられ、転入などの影響もみられます。

しかし、当市の社会増加のおもな原因は港湾建設のおよほ経済効果

ご意見をお聞かせください＝漁業の問題について＝

漁業問題について、その現状と対策などを一応明らかにしましたが、この問題に関する市民のみなさんの建設的なご意見をお寄せください。

応募資格
字あ
てめ
切
めの
先
り他

苦小牧市に居住している人
四百字詰め原稿用紙3枚以内
苦小牧市役所庶務課広報係
2月10日必着のこと
住所、氏名、年令、職業を明記のこと。すぐれたものは広報紙に掲載します。

